

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE-建築(新築)2016年版(使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	県南部地域特別支援学校(仮称)	階数	地上4F
建設地	埼玉県戸田市	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防	平均居住人員	340 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,085 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2019年2月8日
敷地面積	仮想敷地 9000 m ²	作成者	株式会社 松下設計
建築面積	3,403 m ²	確認日	-
延床面積	9,615 m ²	確認者	-



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.1

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 計画地周辺は学校や公共施設が多く立地し、静かで良好な住宅地が形成されており、本施設は周辺の景観と調和し「落ち着いた」「親しみやすさ」「豊かさ」「安らぎ」を兼ね備えたデザインとしている。 また、北側と西側には植栽を多く計画し、文教エリアにふさわしい景観となるように配慮している。		その他 建物の外壁は落ち着いた色彩計画とし、同じ敷地内に建つ戸田翔陽高校との調和を考慮して計画している。 また、給食室の設備は近隣住宅に配慮し、消音ルーバー等を設置し騒音を低減する配慮している。
Q1 室内環境 F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分配慮している。	Q2 サービス性能 天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮している。また階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。	Q3 室外環境(敷地内) 空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。
LR1 エネルギー LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル 自動水栓や、擬音装置などの省水型機器を用いるなど、水資源を保護している。	LR3 敷地外環境 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS
県南部地域特別支援学校(仮称)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、C

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.2
Q1 室内環境							0.40		-	3.2
1 音環境						2.3	0.15		-	2.3
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40		-	
1.2 遮音						2.3	0.40		-	
1 開口部遮音性能						1.0	0.30		-	
2 界壁遮音性能		クラスルーム3でDr値=40				4.0	0.30		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						1.0	0.20		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	0.20		-	
1.3 吸音						1.0	0.20		-	
2 温熱環境						3.1	0.35		-	3.1
2.1 室温制御						4.0	0.50		-	
1 室温		冬期22℃夏期28℃				4.0	0.60		-	
2 外皮性能		窓SC=0.89窓U=2.9外壁U=0.686屋根U=0.564				4.0	0.40		-	
3 ゾーン別制御性							-		-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20		-	
2.3 空調方式						3.0	0.30		-	
3 光・視環境						3.8	0.25		-	3.8
3.1 昼光利用						4.2	0.30		-	
1 昼光率		2.5%≤[昼光率]				5.0	0.60		-	
2 方位別開口							-		-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策						4.0	0.30		-	
1 昼光制御		クラスルーム3でカーテン庇				4.0	1.00		-	
3.3 照度		クラスルーム3で500Lx				4.0	0.15		-	
3.4 照明制御						3.0	0.25		-	
4 空気質環境						3.5	0.25		-	3.5
4.1 発生源対策						4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材を全面的に使用				4.0	1.00		-	
4.2 換気						2.3	0.30		-	
1 換気量						3.0	0.33		-	
2 自然換気性能						3.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.33		-	
4.3 運用管理						4.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御		全館禁煙				5.0	0.50		-	
Q2 サービス性能						-	0.30		-	3.2
1 機能性						3.3	0.40		-	3.3
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40		-	
1 広さ・収納性							-		-	
2 高度情報通信設備対応							-		-	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性						4.0	0.30		-	
1 広さ感・景観		教室の天井高CH2.8m				5.0	0.50		-	
2 リフレッシュスペース							-		-	
3 内装計画						3.0	0.50		-	
1.3 維持管理						3.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30		-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.1	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:CFシート30年、壁:EP塗15年、天井:石膏ボード30年				4.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用				5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20		-	
2.4 信頼性						3.2	0.20		-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20		-	
3 電気設備						3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA対応				4.0	0.20		-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:3.7m以上、3.9m未満	4.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	0.1≦[壁長さ比率]<0.3	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	PF管配線により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	屋上部に設備機器の予備が置けるスペースがある	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	県産材の採用、地域に開放されたカフェ、ウッドデッキの設置、外灯の設置	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=0.60	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.75	3.5	0.50	-	-	3.5
4 効率的運用			2.0	0.20	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	自動水栓や節水型便器、擬音装置を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.1	0.60	-	-	4.1
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメントB種・場所打ちコンクリート杭	5.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	製材:音楽室壁、ビニル系床材:カフェ床、合板:建具	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内装が乾式工法で分別性に配慮、OA707採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡断熱材はノンフロン製品を採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	敷地内に駐車・駐輪場・管理用車両スペースを配置、出入口を2か所設置	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.75	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.25	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストを一部満たす、広告物照明がない	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	県南部地域特別支援学校(仮称)	BEE	1.4	BEEランク	★★★
------	-----------------	-----	-----	--------	-----

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.4	+	3.0	=	6.4	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上		すばらしい 8.0以上	
					

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.4
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.4
消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0

 : 入力欄